

GSway

ともに歩み、ともに進む

Vol. **21**

JULY 2024

特集

お客様に安全と安心を
お届けするために



Safety & Quality

お客様に
安全と安心を
お届けするために



グローブシップの企業理念には「地球にやさしく、お客様の安全・快適な環境づくりに寄与し、社員の幸せと社会の発展に貢献する」という方針が示されています。私たちは、施設を管理するという業務を通じて、お客様の安全・安心・快適・清潔を維持向上させていくことを目指してきました。それは、グローブシップの存在意義そのものであると同時に、業務品質の向上という大きな目標の達成にも貢献しています。

今回の特集では、グローブシップが長年にわたって積み上げてきた安全と品質に対する多様な取り組みについて、当社安全品質推進部からご紹介いたします。

「70年にわたる安全・品質への取り組み」

グローブシップは、その前身であるビル代行と日本ビルサービスの2社が2015年に統合して創設された企業ですが、日本のビルメンテナンス業の黎明期から既に現在の業務に携わり、その70年以上に及ぶ歴史の中で、より優れたサービスを提供できるよう着実に業務品質の向上に努めてまいりました。そして、その中心にあったのは、いつの時代もお客様の「安全と安心」です。



当社は長い歴史の中で、世の中の大きな流れに常に目を配るとともに、他社で発生した大きな事故なども教訓としながら、お客様の安全とサービス品質を維持・向上していくための様々な施策に取り組んできました。もちろん法令改正等の場合にも、それに即した社内体制の構築と社員への周知をスピーディに行っています。最近では、化学物質規制に関する労働安全衛生法の改正に伴い、社内でのリスクアセスメントの実施や社員への情報共有を迅速に進めました。

社内には品質向上委員会や危機管理委員会も設置され、多面的な視点と管理体制の中で、継続的に安全・品質基準の見直しを行っています。

さらに、現場の業務規則を遵守す

るよう全社員に指導するだけでなく、現場で必要とされる作業プロセスが適切に実行されているかどうかを検証するための自主監査や、本社の安全品質推進部が行う訪問検査（＝インスペクション）等により、安全管理と業務品質のレベルを着実に向上させています。

万が一にも労働災害が発生した場合には、その原因分析を関係者および安全品質推進部が一体となって協同で進め、その結果をもとに再発防止策を策定するとともに、全ての現場への情報共有と指導を徹底して行っています。

社内での情報共有には、「労災速

報」により速やかに事故内容を全件社内共有し、再発防止策の立案後に続報を発信。さらに月次の「業務品質ニュース」にて重要事項を再周知するなど、社員一人一人が自分のこととして捉えることができるような体制を整えています。

加えて、環境対策や省エネ、脱炭素といったサステナビリティ推進活動についても、安全と安心を継続的に支えていくための未来に向けた重要な取り組みとして積極的に挑んでいます。

清掃サービスでのエコマークの取得や、アルカリ電解水の積極活用などもその現れの一つです。

安全と衛生は全てに優先する

当社では、労働安全衛生法に則った安全衛生方針を掲げていますが、その中で“当社及びグループ会社に働く全ての人たちの生命と健康を守ることが我々の重要な使命であり、安全と衛生の確保は全てに優先する”と定義しています。どんなに品質の高いサービスを提供しても、そこにリスク管理が伴っていなければ、お客様に本当に信頼いただくことはできません。何よりも安全と衛生を最優先することで、お客様に安全・安心・快適・清潔な環境をお届けする。それが私たちの最大のミッションなのです。

グローブシップ 取締役 東条正明(所管役員)



「多角的な視点で安全と品質を追求する」

ルールの徹底運用と客観的な検証の仕組み

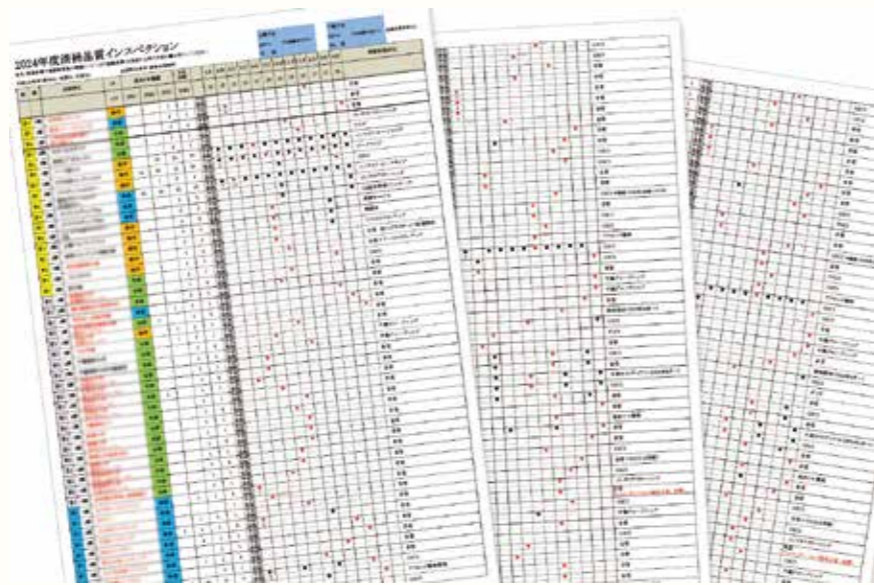
グローブシップの現場には、過去の膨大な業務経験によりブラッシュアップされてきた「業務規則」や「業務標準」などの各種業務マニュアルが整備されています。社員はこのマニュアルに定義された安全と品質を確保するための様々なルールを遵守することで、自分自身の安全を、ひいてはお客様の安全と業務品質の維持向上を実現しています。

また、ルールの遵守に関しては、現場に任せるだけでなく、組織として客観的にチェック・検証する仕組みを整備しています。

まず、部支店の営業担当者が現場を訪問し、ルールの運用が適切に行われているかどうかを検証する「自主監査」が四半期ごとに実施されています。

さらに、本社の安全品質推進部が現場を訪問し、「インスペクション」シートに記載された細目に関してチェック・検証する活動を定期的に行っています。検出された不備や不具合については、関係者に対して是正を指示し、その改善が実行されているかどうかを後日再検証するまで確実にを行っています。

このインスペクションは、設備品質課、清掃品質課、警備品質課の担当



インスペクションシートの一例

ごとに実施されており、各業務の特色を反映した100以上の項目により、厳密かつ厳正に評価します。

災害の根本原因を分析、再発防止を指導

業務上の労働災害が発生した場合には、その原因と考えられる事由を洗い出し、「なぜなぜ分析」などの手法を用いて根本原因を深掘りしていくことで、関係者の意識共有を図ります。そして、原因となった行動や環境を排除、改善するなどの対策を講じるとともに、安全品質推進部が主体と

なって再発防止に向けた指導を行います。

お客様からご意見をいただくCSアンケートも、業務改善のために不可欠なものとなっています。結果をまとめたレポートは全社員で共有し、特にネガティブなご意見に対しては担当部署が直接お客様のところへ伺い、誠実な対応と早期の解決に努めています。

また近年グローブシップでは、環境配慮の取り組みとして、清掃サービスエコマークの取得を推進しています。これも、お客様に安全で快適な環境をお届けしていくという私たちの大きな使命を達成するための取り組みの一つです。



厳しいルールを徹底し信頼につなげる

当社の安全に関する運用ルールは、業界の他の企業と比べてかなり厳しいレベルで行われています。一例を挙げれば、リスクが僅かでも想定される場所では基本的にヘルメットの着用を義務付けていますし、脚立を使用する場合は必ず他者が支えるよう指導を行っています。危険な箇所などが発見された場合には、お客様と相談しながら適切な改善を図っていきます。こうした、安全に関するルールの徹底運用と不断の現場改善が、お客様からの信頼につながっているものと自負しています。

グローブシップ 安全品質推進部 部長 堀川重成

危険な体験を情報共有、リスクアセスメントも実施

現場での自主的なリスク対策も積極的に行われています。

その第1が「ヒヤリハット活動」です。これは、本社・各支店、出張所においてスタッフが危険な体験をした、あるいは「ヒヤリ」「ハット」した危険な行為や箇所などを発見した場合に、直ちにミーティングで提起して、そのリスク情報を同僚たちと共有するというものです。例えば、急に扉が開いてぶつかりそうになった、といった体験を出張所のメンバー全員で共有することで、メンバーのリスクに対する危機意識を高めるとともに、責任者はその情報をもとにリスクを下げるための施策を考え、実行に移すことが可能になります。

第2に「リスクアセスメント」です。このアセスメントは現場ごとに行われるもので、現場に潜むリスクの洗い出しを行い、それをミーティングの場で全スタッフと共有し、危険行動を回避するための注意喚起を行います。このリスクアセスメントのリストは定期的な更新が行われるとともに、新たな危険が検知された場合には速やかにアップデートしています。



業務品質ニュースの一例

多様なツールで社員の安全意識を向上

安全品質推進部が毎月発行している「業務品質ニュース」では、安全や業務品質に関わる最新情報や、時節に合った注意喚起などを社内向けに発信しています。業務上重要と考えられる情報をすべての社員に周知する媒体として活用されており、現場スタッフの意識向上のためにも不可欠なツールとして役立っています。

また、発生した労働災害や事故の状況、あるいは品質に関するお客様からのクレームについては、特定名称を伏せた上で「労災速報」、「Voice Of Customer (VOC)」という形で社内に発信しています。この2つは、実際の現場で発生した課題を、本

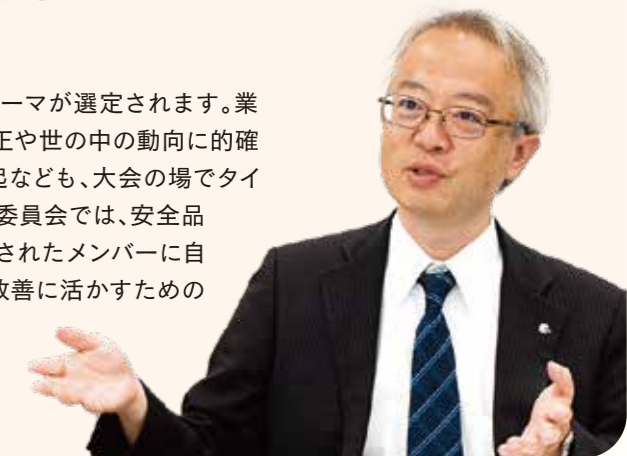
社・各支店及び出張所のスタッフ一人一人が自分ごととして考えてもらう上で、非常に有益に機能しています。

また当社では、毎年1回、全社員を対象として「安全標語」の募集を行っています。安全に対する社員の意識向上を目的として始まった企画ですが、今では毎年1,000通にも及ぶ応募が集まるまでになりました。投稿された作品は社内投票により10作品に絞られ、東京ビルメンテナンス協会主催の安全標語募集に会社代表作品として応募するとともに、当社が毎年秋に開催している「品質向上安全衛生大会」で表彰され、社員の安全意識の更なる醸成に役立っています。

業界の最新トレンドと現場の知見を改善に活かす

品質向上安全衛生大会は、毎年のトレンドによって様々なテーマが選定されます。業務品質向上に資する最新の話題を取り上げるとともに、法改正や世の中の動向に的確に対応するための情報周知や、リスク回避のための注意喚起なども、大会の場でタイムリーに行っています。また、年に4回開催している品質向上委員会では、安全品質推進部が展開している施策について、本社、支店から選抜されたメンバーに自由に意見を述べてもらいます。現場の声に率直に耳を傾け、改善に活かすための貴重な機会となっています。

グローブシップ 安全品質推進部 部長代理 猪股圭介



専門業務のプロが現場の健全性を支える

安全品質推進部を中心に対策を強化

グローブシップ 安全品質推進部では、「設備」「清掃」「警備」という業務ごとに詳細な基準を設け、安全レベルを維持・向上し、業務品質をさらに高めていくための様々な試みを行っています。担当するのは、豊富な実務経験を持つプロフェッショナルたち。指導、教育を通じて、現場スタッフのスキル向上を図ると同時に、組織が適正に機能しているかどうかを監査しています。安全・品質に対する各部門の取り組みについて、それぞれの責任者に聞きました。

FACILITY

設備

現場を自らの目で確認し改善指導を徹底

グローブシップ 安全品質推進部 設備品質課 課長 女良勝



設備部門において安全・品質を維持・向上させていくために最も重要視している取り組みが、現場を訪問して、細かく分類された評価項目をひとつひとつ検証していく「インスペクション」です。

インスペクションは、現場業務の安全や品質の状況を細部に至るまでチェックするための仕組みですが、業務、労務、品質、安全、そして重点管理項目として設定された100以上に及ぶ評価項目について、ルールが守られているか、必要な行動がとられているか等を現場担当者と一緒にひとつひとつ丁寧に確認していきます。

万が一課題が発見された場合には、安全品質推進部が中心となって改善のための指導を行うとともに、その後、数週間から数か月の中で改善

の進捗が図られているかどうかを確認するフォローアップ活動も充実しています。

インスペクションを長期にわたって実施してきた結果、特に厳密なチェックを行っている「安全」に関する評価報告においても2023年度は96%以上が適正と判断されるなど、確実に成果として現れてきています。

さらに2024年度は、法改正の内容も盛り込み、インスペクションの評価項目をより細かくした上で、より分かり易くなるような判断基準へとアップデートしました。新しい評価項目は5月のインスペクションから適用されています。

また、災害が発生した場合には直ちに現場に向いて検証を行うとともに、「なぜなぜ分析」などの手法を

用いて原因の解明、分析を行い、同様の災害が起こらないような対策を立案し、関係者全員の理解とアクションへと繋げていきます。

さらに、こうした災害やクレームなど、ひとつの現場で発生した事案を他の現場に対しても横展開し、同様の課題に対して全社で同じ対応を図っていただけるような指導も併せて行っています。現在は、そうした活動の情報を他の現場でも素早く活用できるよう、発生事案のデータベースを進めています。このデータベースに誰もが簡単にアクセスできるようになれば、各現場や個々のスタッフにおける安全・品質の維持・向上対策は確実に充実していくものと考えています。

CLEANING

清掃

エコマーク取得推進で人体や環境にも配慮

グローブシップ 安全品質推進部 清掃品質課 課長 石塚肇



清掃部門においても、年間でおおよそ200回に及ぶインスペクションを実施しています。インスペクションでは、全国ビルメンテナンス協会認定の建築物清掃管理評価資格を持つインスペクターが、定期的に現場に赴き、個々の契約に沿ったサービス提供が行われているかを確認。清掃の「作業品質」と「組織品質」について点検・評価します。

「作業品質」とは清掃サービス自体の品質のことであり、「組織品質」とは清掃サービスを提供する企業としての作業マネジメント品質のことを指します。この両者を把握することで、改善の

ポイントが明確化され、現場への的確な対応が可能になります。

インスペクションの結果は、現場にフィードバックされることでスタッフの自主的な改善に繋がるだけでなく、社内の営業部にも共有され、サービス全体のレベルアップに活用されています。

また当社では、昨年より清掃サービスエコマークの取得を推進しており、2024年5月現在で43の出張所が認可されました。エコマークを取得することに伴い、環境配慮の取り組みがより一層進んでいますが、その一環としてアルカリ電解水の普及にも力を入れています。

アルカリ電解水は、人体や環境に影響を及ぼすと言われる界面活性剤を含まないことから昨今大きな注目を集めています。当社でも各現場での用途を選定しながら、着実に利用を広げていきたいと考えています。

労災事故やお客様からのクレーム事案が発生した場合には、現場検証を行うとともに、原因の深掘りに取り組んでいます。ツールとして活用している「なぜなぜ分析」は、現場スタッフや関係者が考えを深めていくために大変有益であり、納得してアクションへと繋げるための最良の手法となっています。

SECURITY

警備

当事者として危機意識を最大限に持つ

グローブシップ 安全品質推進部 警備品質課 課長 黒木剛



警備部門が最も重点を置いているのが、警備スタッフの危機意識の醸成です。施設警備業務は、盗難・火災等の事件・事故を防止し、発生した事件・事故の被害を最小限に留めるための警戒活動です。その性質上、危険を全て排除し、ゼロにすることはできません。

そこで、警備員教育や現場巡回指導を通じて、他の施設で起こった事故やクレームを他人事とは考えず、自分にも起こる可能性があるという当事者感覚で、危機意識をしっかりと植え付けていくことが重要になります。

そのため、現場を訪問して評価・検

証するインスペクションや、現場ごとに実施するリスクアセスメントのフィードバックにおいても、なるべく多くの改善提案を検討するようアドバイスを行っています。

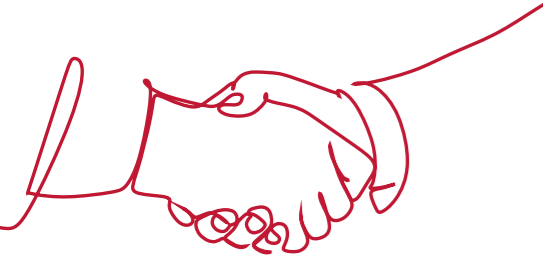
また、警備員教育については、従来型のティーチング方式ではなく、事故やクレームの原因行動の解明、適切な対応の検討、そして再発防止策に至るまでの全ての流れを徹底的に考え、自主的な行動に繋げていけるような「コーチング方式」のプログラムへと切り替え、大きな成果を上げています。

訓練科目に関しても、現場で起きて

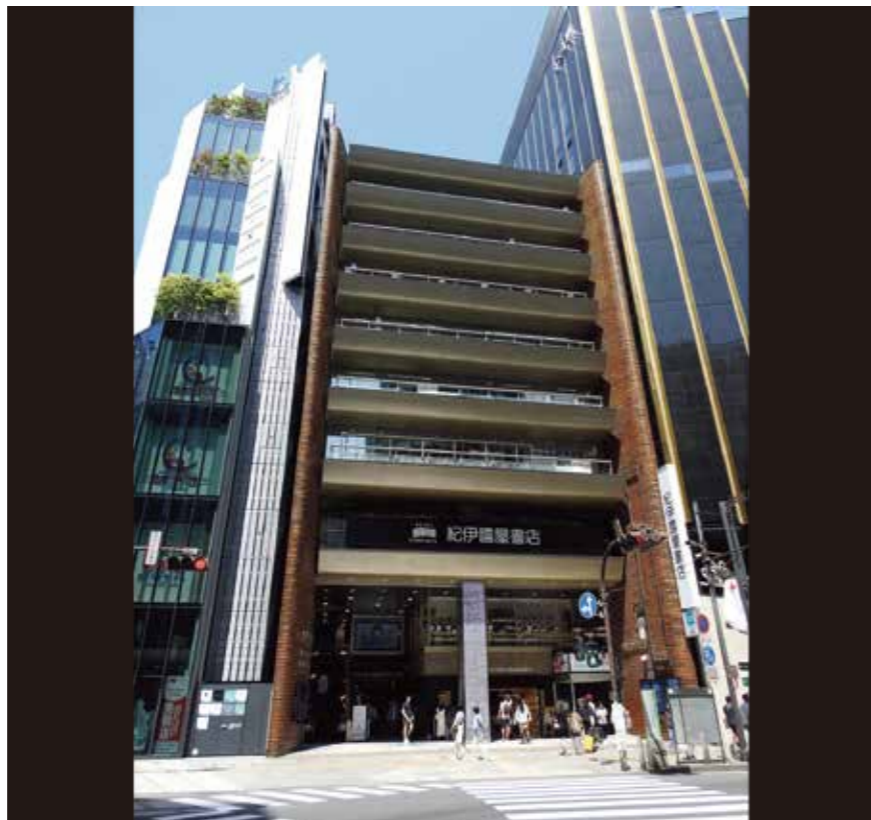
いるアクシデント・トラブルを訓練で再現し、失敗を当事者として体験するだけでなく、第三者の目線でも学べるようなカリキュラムを用意しています。

さらに、従来は警備品質課員の現場巡回指導のみだった警備員の指導を、昨年9月からは現場の責任者にも担ってもらい、一時的な指導だけでは資質向上が難しい礼儀・挨拶・言葉遣い・姿勢・態度等の指導に加え、生活指導をも含めた事故・クレーム防止のための指導監督体制を強化。警備品質課が実施する教育プログラムとの両輪により、安全・品質の向上に努めています。

お客様と ともに 歩む。Vol.12



「紀伊國屋ビルディング」



老舗書店として文化と情報を発信 価値ある景観で歴史的建造物に選定

1927年(昭和2年)に創業された紀伊國屋書店は、日本の老舗書店の代表格として大きな存在感を示しています。中でも新宿本店が入る紀伊國屋ビルディングは、創業の地であると同時に、一般書籍に加え専門書や洋書、DVDも取り扱っているほか、劇場施設「紀伊國屋ホール」も併設されるなど、文化・芸術の発信拠点として多くの人々に愛され続けてきました。2017年には東京都の「歴史的建造物」にも認定され、今その価値が改めて見直されています。

Company Profile

国内:新宿本店をはじめ全国主要都市に69店舗 7営業本部(28営業部・営業所) 82ブックセンター
海外:42店舗、6営業所・3事務所

歴史的建造物を未来へと 繋げるため改修を決断

紀伊國屋ビルディングは、今から60年前の1964年(昭和39年)3月に竣工しました。紀伊國屋書店の創業者である田辺茂一氏が、日本のモダニズム建築を牽引した建築家の前川國男氏に依頼して設計された地上9階、地下2階の複合ビルには、書店のほかに劇場・画廊・飲食店などが入り、時代に先駆けた大型書店、そして先進的な情報発信拠点として、各方面に様々な影響を及ぼしてきました。近年では、紀伊國屋ビルディングが持つ建造物としての歴史的価値が評価され、

2016年にはDOCOMOMO japan「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 No.204」に、2017年には「東京都選定歴史的建造物」に認定されました。これを機に紀伊國屋書店では、歴史あるビルを将来に向けて使い続けていくことを決定し、2019年に耐震改修工事に着手。並行して基幹設備更新工事と紀伊國屋ホールの改修工事、さらには新宿本店の店舗改装工事を進め、2023年1月に、竣工当時の面影と現代的なデザインを融合した新しい姿へと生まれ変わりました。建て替えという選択肢もある中、改修を施すことで未来へ繋げていこうと決断した理由について、株式会社紀伊國屋書店コーポレート統括本部 総務人事部付部長の相澤哲洋様は次のように話します。

「東京都の歴史的建造物に選定されたことが大きな要因となりましたが、もはや当社だけのビルではなく、今は歴史的な遺産を管理しているという責任があると感じています。耐震工事で基幹設備更新工事にあたっては、昔からの外観を保持しつつ、ビルの機能も維持したまま、お客様にご迷惑を掛けずに実施することが必要だと考えました。書店としての営業を継続する中での改修でしたので、商品の移動を何度も繰り返し行い、お客様にご不便を感じないように細心の注意を払いながら工事を進めました」
この改修により、本年2024年2月には令和5年度「日本建築防災協会理事長賞・耐震改修優秀建築賞」を受賞。さらに3月には第33回「BELCA賞表彰建築物(ロングライフ部門)」に選定されるなど、未来へと残すべき建造物として高く評価されています。

お客様に安心して ご利用いただくために

紀伊國屋ビルディングは、紀伊國屋書店の中でもフラグシップ的な位置付けにある新宿本店が入るだけでなく、物販や飲食などの各種テナントや、紀伊國屋ホールでは演劇など様々なイベントが開催されるなど、複合的な役割を担っています。さらに、新宿通りに面した1階正面から裏側の靖国通りに抜けられる通路としての機能も果たしているほか、地下通路で新宿駅にも直結しています。このように毎日多くのお客様がご利用されることから、お客様の安全と安心を守るために建物としての保全を図っていく苦労は日々絶えません。

グローブシップ 紀伊國屋書店出張所 所長 島田浩二

大規模更新工事が行われる前は、設備機器の劣化など管理面で様々な課題があり、日々の対応は本当に大変でした。しかし、今回の改修によってそのほとんどが解消され、空調の細かい設定により節電対策が図れるようになるなど、多くのメリットも生まれました。不特定多数の方が訪れるビルの管理業務で留意しているのは、お客様にご迷惑を掛けずに、安心してご利用いただけるよう、常に安全第一で作業に取り組むということです。これからも定期点検や非常時の訓練などをしっかり行い、設備運転のさらなる効率化を目指して努力していきたいと考えています。

配置人数:統括管理責任者 1名、セキュリティエンジニア(SE:設備と警備を兼務) 17名、昇降機オペレーター 4名(目黒の紀伊國屋書店本社ビルのスタッフを含む)
管理対象:紀伊國屋ビルディング(新宿)および紀伊國屋書店本社ビル(目黒)



株式会社紀伊國屋書店 総務人事部付部長 相澤哲洋様(左)

「建物は生き物でもあるためいつ何が起こるか分かりません。各種設備機器のメンテナンスはもとより、これからも長いスパンで設備の安全性や更新工事のスケジュールを見直し、いつまでもお客様に安心してご利用いただけるビルでありたいと考えています」

グローブシップは紀伊國屋ビルディングが竣工した1964年当時から管理業務を担当してきました。今では設備管理のほか、警備や昇降機オペレーターなど様々な役割を担っています。相澤様は、グローブシップの管理業務について非常に満足していると話します。「当ビルは60年が経過した大変古い建物なので、ビルの個性や特性をすべて把握できていないと運用が困難です。その点、ビルの設立当初から管理を委託してきたグローブシップさんは、そうしたビルの特性を知り尽くした上で、事故なく日々の運

用を行なっていただいています」

さらなる発展に向けて グローブシップとともに

紀伊國屋書店は2027年に創業100周年を迎えます。100周年には様々なイベントが計画されていますが、同社にとってそこは通過点でしかありません。大切なのは、ご利用いただく皆様の安全と快適性を継続的に維持・向上していくことです。「紀伊國屋ビルディングは、紀伊國屋書店にとってシンボルとも言える建物であり、これからもお客様に安心してご利用いただける場所であり続けなければなりません。そのために今後もグローブシップさんと協調して、SDGsの観点も考慮しながら、設備の安全と建物の管理保全の課題に日々取り組んでいきたいと考えています」



耐震改修工事を行い
2023年にリニューアルした新宿本店

Building Profile

所在地:東京都新宿区新宿3-17-7
管理規模:地上9階・地下2階
(鉄骨鉄筋コンクリート造)
延床面積:11732.45㎡
主要用途
書店・劇場・画廊・ショップ・レストラン等

WELCOME! 地域会社へようこそ!

全国に広がるグローブシップグループのネットワークをご紹介します。



茨城グローブシップ株式会社

地域に密着し、ビル管理業務をワンストップで提供 施設全体の安全と快適な環境づくりに寄与

当社は、地元深く根差した地域密着型企業として、水戸市を拠点に営業を展開し、茨城県内の施設に対し、50年に渡ってビルメンテナンスサービスを提供してきました。さらに2010年にはつくば営業所、2012年には福島事業所を開設するなど、営業エリア拡大にも尽力してきました。また、設立当初は清掃業務にほぼ特化していましたが、お客様のニーズに応えながら業容の拡大を図ってきた結果、現在は、設備管理・工事・環境衛生管理・警備・マンション管理など、ビルの運営管理に必要なすべての業務をワンストップで提供できる総合ビル管理サービス企業へと進化しています。

当社のモットーは、お客様が所有する施設全体の「安全と快適な環境づくりに寄与する」ことであり、プロフェッショナルなサービスにより、安全・品質を追求しながらお客様との信頼関係を構築してまいりました。また、グローブシップグループの一員として、ロボット活用をはじめとするDX推進など最新のノウハウを現場業務に活かし、効率性と生産性を向上。さらにGSWAYに基

づき、社員教育やコンプライアンス順守、朝礼や指差し確認、みだしなみの徹底など、GS標準オペレーションを展開することで、サービス品質の向上に努めています。業務改革の取り組みとしては、2022年度にマイアイデア提案制度を導入し、ムリ・ムダ・ムラの排除を中心とした業務の効率化など、社員からの提案による多くの改善活動も積極的に進めてきました。

お客様は着実に増えており、昨年7月にオープンした水戸市民会館では、設備管理、清掃、警備、環境衛生の各業務を担っています。オープン当初は各種イベントの終了時刻が異なるため清掃業務の人繰りに苦労しましたが、現在はイベントスケジュールに沿ったきめ細かいローテーションを組むことが可能となりました。また、清掃スタッフとAI清掃ロボットの作業をスペースの特性や時間帯などによって振り分けることで、ロボットとの協働による効率的な業務遂行を実現しています。

当社は今年、設立50周年を迎えます。9月には記念式典の開催や、お客様や従業員

への記念品等の贈呈を予定しているほか、水戸市民会館で上演されるミュージカルに児童養護施設の子供たちを招待。バスケットB1リーグ「茨城ロボッツ」の試合に障がい者施設の皆さんを招待するなど、地域貢献にも取り組んでいきます。そしてこれを機に、さらに強固な経営基盤を確立していくとともに、今後も総合ビル管理サービスのプロとしてお客様の様々なニーズに応えながら、安全・快適な環境づくりに寄与し、社会の発展に貢献してまいります。



茨城グローブシップ株式会社 代表取締役社長 藤平浩明

設立50周年を迎えるにあたり、歴代の役職員が苦勞しながら技術と技能の研鑽を重ね、安全と品質の向上を努めてきたことに敬意を表したいと思います。これからも100周年に向け、SDGsやDXにも積極的にチャレンジしながら、総合ビル管理サービス企業としての地位を確固たるものとし、より持続可能な企業へと進化していきたいと考えています。

会社情報 茨城グローブシップ株式会社

所在地: 茨城県水戸市泉町3-1-28 第二中央ビル

設立: 1974年9月(2016年10月1日に茨城ビル代行株式会社から社名変更)

事業内容: 建物施設の保守運行業務並びに修理工事、建物環境衛生管理並びに清掃業務の請負、警備業務並びに防災防犯設備の施行管理、放射性物質による汚染除去・同廃棄物処理業務

主な管理ビル: 茨城県立県民文化センター、水戸市民会館、茨城県近代美術館、常陽銀行、東京電力、JERA、茨城県JA会館、ファッションクルーズ、ひたちなかテクノセンター、丸紅ロジスティクス、水戸協同病院、伊勢基本社、茨城新聞社、など(敬称略)

従業員数: 435名(2024年5月現在)

3つのエリアを統合し、北関東支店を開設

4月1日付で、宇都宮支店、群馬支店、埼玉支店の3支店を統合し、北関東支店として新たなスタートを切りました。

今回の支店体制の変更は北関東における営業体制をより強化することを目的としたものであり、栃木、群馬、埼玉の3つのエリアを一つの大きな商圏と捉え、従来の営業活動の境界を取り払った統合的な管理体制を再構築するものです。これに伴い北関東支店内に、宇都宮営業所、群馬営業所、埼玉営業所を新設しました。

グループ3社の合同入社式を実施



4月1日に、グローブシップグループ3社(グローブシップ、アトックス、日東キャストリアルサービス)の合同入社式が実施されました。3社が迎えた新入社員は計56名で、そのうち15名がグローブシップに入社しました。大学卒(大学院含む)の10名は総合職および設備職として、高校卒の5名は設備職、工事職、クリーンクルー職として、既に各現場へ配属されています。

今年は全国規模での採用を強化したことにより、北は青森から首都圏、名古屋、南は広島まで幅広い地域から優秀な人材が集まりました。またダイバーシティの観点においても、女性3名、外国籍の方2名が仲間に加わったことが大きな特徴です。

新入社員には今後、仕事を通じて会社や社会に貢献してだけでなく、個人の生活も充実させ、豊かで素晴らしい人生を送ってほしいと願っています。

GSWAYコンテストを開催

6月17日に第8回GSWAYコンテストが開催されました。本社会議室には、オンラインも含め総勢150名に及ぶ社員が参加し、全国から選ばれた8ヶ所の現場責任者より独自の取り組みが発表されました。

開会にあたって社長の矢口より挨拶があり「GSWAYコンテストは、現場力を全社レベルで向上していくことを目的とした当社の重要行事の一つです。各出張所が自らの力で現場を活性化し改善していく取り組みは、当社として誇る強みのひとつとなっています。本日参加された皆さんは、その中で良いと思った取り組みを各現場へと展開してほしいと思います」とコメントをしました。

受賞現場は参加した社員による投票で決定され、金賞には節電をはじめ環境への配慮等が高く評価された「パレスサイドビル出張所」が選ばれました。

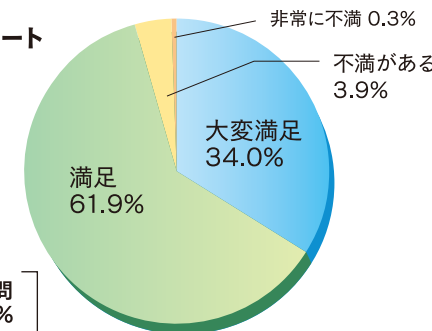


- <金賞> パレスサイドビル出張所
- <銀賞> りそな千里ビル出張所
- <銅賞> 新浦安ベイエリア出張所

CSアンケートを実施

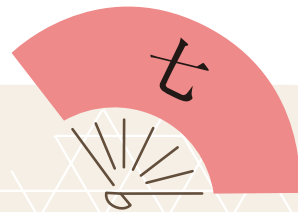
本年1月～3月に、本社および支店のお客様を対象とした2023年度CS(顧客満足度)アンケートが実施されました。グローブシップの業務品質や従業員の行動に対して「満足」「大変満足」と回答された割合は95.9%と高いご評価を頂きました。

2023年度CSアンケート 評価割合



全体アンケート回答数:5148設問
「大変満足」「満足」合計率:95.9%

春風亭昇吉の 耳寄ばなし与太ばなし



夏

真っ盛り。令和6年は7月22日から8月6日までが、二十四節気のうち最も暑い「大暑」です。熱中症にならないように、十分な水分を取って「対処」して頂きたいと思えます。

1983(昭和58)年に「六甲のおいしい水」が1リットルの紙パックで発売されました。日本で、500mlペットボトル飲料が供給開始されたのは1996年のこと。さらに、2011年の東日本大震災を機に、ペットボトルの水を災害時の飲料水として備蓄する人が急増しました。安全でおいしい水を飲む文化、さらに災害時に命を守る文化が生まれたわけです。ちなみに、農林水産省や東京消防庁のガイドラインによると、飲料水として必要な量は、1人1日当たり1リットル以上だそうです。

水道水をそのまま飲む国は、日本のほか、ドイツ、ノルウェー、南アフリカ共和国など限られています。美味しい水に恵まれた日本で水を買う習慣があるというのは、変だと思われるかもしれません。

しかし、江戸時代にも水売る「水屋(みずや)」という商売がありました。本所・深川界隈は、埋め立て地で水質が悪く、水道の水を売り歩く水屋から水を買いました。水屋は、1荷(か)の水を4文で売っていました。1荷とは、天秤棒の前後の桶2つ分のこと。4文というのは今でいうと100円ぐらいです。「四文屋」という屋号のお店がありますね。あれはいままでいう100円ショップです。四文銭が広く流通していたのでワンコインの店です。水屋というのは、重労働で、利の薄い商売でした。

水屋さんが登場する「水屋の富」という落語があります。これは私が一番好きな落語の一つです。ある水屋が、なけなしの金で富くじを買ったら、幸運にも当たる。しかし、すぐ水屋を辞めると、それを頼りに生活している人が困る。お金を縁の下に隠して、仕事に出るが心配でしょうがない。夜は夜で、夢に強盗が出て来て眠ることができない。これが毎日続いて、水屋はふらふらになってしまう。

ある日、仕事に出かけて留守をしているときに、向かい

に住んでいるやくざ者に、縁の下の金を盗られてしまう。帰って来た水屋が驚きつつも、「ああ!!これで苦労が無くなった」。



江戸時代にも繁盛していた
水を売る商売



春風亭昇吉／落語家

1979年岡山県生まれ。史上初の東大出身落語家。在学中に全日本学生落語選手権・策伝大賞で優勝し、東大で初の総長大賞に輝く。2007年に春風亭昇太師匠に弟子入り。厳しい修行時代を経て、2021年に真打昇進。気象予報士やテレビ番組の司会等、広範に活動を展開しています。